

海星だより

第6号 平成18年11月

広島県立大崎海星高等学校

<http://www.osakikaisei-h.hiroshima-c.ed.jp/>

VIVA☆文化祭 ～青春の1ページ～

3年A組

今回は3年生ということもあり、最後の文化祭だったので生徒皆で盛り上げることができました。

初日は、ホール神峰で生徒たちによるステージ発表やOBの方による講演会が行われました。コーラスや英語のスピーチ、そして一番の見所だったファッションショーが行われました。生徒たちはそれぞれ練習の成果を出せていたと思いました。講演会の方も少し話が難しくわからなかった所もありましたが、それなりに興味をもって聞くことができました。

2日目は、各クラスごとに模擬店を出して生徒が作ったものを売ったり、生徒会が企画したイベント、ソーラン踊りなどが行われ、午後からもライブや太鼓の演奏などがあり、初日以上に盛り上がりました。各クラスで出した食べ物はどれもおいしかったし、PTAの方々のもちつきは、とても楽しそうでした。文化クラブや芸術科目選択者の作品展示もあり、皆が一生懸命頑張って作った作品はとても素晴らしかったです。

今まで行ってきた文化祭も楽しかったけど、今年の文化祭が一番心に残る思い出になりました。大変だったと思うけど、終わった時の達成感は素晴らしいものだと感じました。

<1年 感想>

文化祭を終えて、自分が一番頑張ったことは力仕事です。ストラックアウトのネットや礼法室の机を頑張って運びました。テントの準備や片付けの作業なども皆で協力してできたと思います。このような作業は光の当たっていない影の部分ではありますが、このようなことを通してクラス皆との絆が増したように思います。

自分が二番目に頑張ったことは、カラオケ大会でした。カラオケ大会が始まる5分前くらいからとても心臓がバクバクしていました。12時になった時には緊張がピークに達しました。自分の番がきました。1フレーズ歌うごとに緊張の糸がほどけました。歌詞を間違えないか、一人もこなかったら、と最初はどうなるかと思いましたが、うまくいったので良かったです。

このたびの文化祭ではいろいろな経験ができました。このことを日々の生活に生かしていきたいです。



<生徒会長 感想>

私たち生徒会にとって初めての大きな行事が文化祭でした。今年は、サッカー部の試合があったので、予定を立てることに苦労しました。生徒会のメンバーも、それぞれのクラブやステージ発表の練習との掛け持ちでしたが、毎日遅くまで話し合い、準備してなんとか前日に間に合わせる事ができました。

一日目は、広くて設備の整った文化センターで、ステージ発表と講演会を行いました。二日目は格技場で文化部などの展示発表、校庭でコスプレや模擬店、さらに体育館でバンド演奏を行いました。

準備不足に加え、初めてのこともあって慌ただしい文化祭になってしまいましたが、楽しんでいる多くの人を見ることができ、これまで頑張ってきて良かったと思いました。

今年度の文化祭の反省を来年度に生かして、さらに良い文化祭になればいいと思います。



<2年 感想>

今年の文化祭は、大変でした。ソーランは、夏休みにコンテストに出たから一週間で練習してなくて、私と射場君で踊りを考え始めたのは本番の2・3週間前でした。一年生と一緒に本格的に練習を始めたのは、なんと本番一週間前でした。踊りが結構変わったのに、一週間で詰め込むように教えてしまって、メンバーにはすごく申し訳なかったのですが、みんな真剣に取り組んでくれて、なんとか形にできました。本番ではみんなで一つになって思いっきり踊れたので、最高に楽しかったです!!

生徒会にとっては今回が初めての行事だったので、分からないことだらけでした。考えないといけないことが山積みで、毎日忙しかったです。私はすごく頼りなかったので、いつも生徒会の人に迷惑をかけていましたが、とりあえず最後まで笑顔だけは忘れずにやってこれたので、よかったかなーと思います。

こんな感じで色々大変で、多くの人に迷惑をかけてしまったけれど、楽しくみんなで盛り上がったので、今年の文化祭は大成功だったと思います!!青春の一ページにしっかりと刻まれた二日間でした。



ファッションショー



英語スピーチ



餅つき



PTA コーラス



バンド



コスプレ大会



ソーラン踊り



1年生 合唱



太鼓 演奏



茶道部 お茶会



教育講演会



演題 島から羽ばたく人をめざして
～これからの社会で求められるもの～

講師

本谷 祐一 氏

大崎高校 卒業 (呉市豊浜町出身)

草津温泉フットボールクラブ 代表取締役
(株)デオデオ 取締役

講演「島から羽ばたく人をめざして」からのメッセージ 校長 加藤 雅春

高等学校卒業まで島で育った講師である先輩は、「どんなところで暮らしても、やるものはやる」という現実から逃げない姿勢を持ち、高校の寮生活で上下関係の経験を通して簡単にはギブアップしないタフさを身につけました。また、高校・大学と野球にしゃにむに組み込む中で、上級生の時は副主将としてみんなをどうまとめるか、やる気にさせるかと悩む中で経営術を学びました。そして、学生時代を通して親友と呼べる友達にめぐり会い、その人的ネットワークの忠告や情報提供にたびたび助けられています。「体験が人をつくる」という言葉の中には、人を大切にする生き方が見えてきます。チャンスの女神に後ろ髪は無いので、チャンスをチャンスと見る眼と実力を蓄えようと努力する姿勢がいります。先輩を見習って、気構えとも言うべき良い態度や姿勢を高校時代に身に付けましょう。

<生徒 感想>

「チャンスの女神は後ろ髪を引かない」この言葉がとても印象に残りました。

チャンスというものはいつも偶然のもので、そのチャンスを掴むか逃すのかによって、人生をも左右してしまいます。そのチャンスを逃すことなく自分の力にすることができるのだと思いました。また、自分はチャンスを逃さないという自信があるから堂々としていられるのだと思いました。

僕は、チャンスだったと後で気付くことが多くあります。だから、この言葉を耳にしたとき最初はドキッとしましたが、本谷さんの話を聞いていると、チャンスとは親友など人との関わりによって手に入れ、広げることができるということがわかりました。

あと数年で社会人です。仕事をするにあたって、「チャンスの女神は後ろ髪を引かない」この言葉を胸に、自らの手でさまざまな目標を達成できる社会人になりたいと思います。

<保護者 感想>

文化祭第一日目、大崎高校卒業生・本谷祐一氏の教育講演会が行われた。

たくさんの地域の方が来場され、講師の高校時代がとても豊かなものであったことがうかがわれた。氏は、自身の生活体験を踏まえ、社会で活かすべき基礎ができた有意義な学生生活を振り返りながら、「何でも話せる親友をたくさん作ること」「様々な経験が人を作ること」「目標をしっかりと持ち、あきらめることなく頑張ることにしたいこと」「大崎海星高校を中心として町が発展することを願っていること」など、後輩達が聴いてひとつでもふたつでも参考になればという熱い思いで話された。

中でも先の衆議院選挙を例に出しながら「勝つためには何をしてもよいのはおかしい。企業ではそのやり方は絶対通用しない。子どもも大人がやっているからいいと思ってしまう」という話を聞いて耳が痛かった。

子ども達を育てているという自分の立場を自覚し、日々の行動や価値観を振り返らなければと感じた。子ども達の高校生活が実り豊かなものになるように、これからも支援していきたい。

<保護者 感想>

雨の中、生徒・保護者・一般の方が講演を聞きに来てくれました。本谷氏のお話の中で、高校・大学の学校生活の中での上下関係、大学野球部副主将の経験がマネジメントの勉強になったなど、社会で生かすべき基礎が養われたのが、やはり学校生活の中であったこと、また、たくさんの親友もできたということを知り、私達の子供も沢山の親友を作り将来に役立つ色々な経験をしてほしいと思いました。もちろん親としては勉強もがんばってほしい。生徒にはとてもいいお話でした。言葉を胸に、自らの手でさまざまな目標を達成できる社会人になりたいと思います。